

各委員構成を一新(5月臨時会)

5月22日に行われた臨時会では、3つの常任委員会と議会運営委員会、議会広報特別委員会の委員構成を新しくした。また、各正副

議会広報特別委員会	議会運営委員会	産業建設委員会	文教委員会	総務厚生会
議会広報等に関すること	議会の運営に関すること	建設部門に関すること	教育部門に関すること	総務部門・民生部門に関すること
委員長 福垣内宏明	委員長 山吹 富邦	委員長 藤本 哲智	委員長 佛圓 大源	委員長 富士 一彦
副委員長 藤本 哲智	副委員長 久保隅逸郎	副委員長 久保隅逸郎	副委員長 山野千佳子	副委員長 福垣内宏明
委員 山野千佳子 伊藤真由美 白築 美敏	委員 佛圓 大源 富士 一彦 藤本 哲智 白築 美敏	委員 中原 裕侑 山吹 富邦 白築 美敏	委員 馬上 勝登 渡 紘八 藤河 祥司	委員 尺田 公造 南田 秀夫 伊藤真由美

委員長についても同日各委員内で互選により決定した。新委員の構成は左記の表の通り。

産業建設委員会を開催

6月18日に産業建設委員会を開催した。新メンバーとなり、また今年度初めての委員会で、定例会一般質問でもたびたび取り上げられてきた、深原地区町有地の利用計画や、県道矢野安浦線トンネル工事の建設発生土の活用などを協議事項とした。建設部からの計画等の説明の後、委員から質問をする形で協議は進められた。

文教委員会を開催

6月30日に文教委員会を開催した。今年度初めての委員会で、教育長による概要説明の後、教育部より昨年度主要事業の報告と効果、今年度主要事業の計画と効果見込について説明を受けた。その後、委員から教育部に対して質問をする形で協議は進められた。

総務厚生委員会を開催

7月1日に総務厚生委員会を開催した。今年度初めての委員会で、総務部及び民生部より昨年度主要事業の報告と効果、今年度主要事業の計画と効果見込について説明を受けた。その後、委員から総務部及び民生部に対して質問をする形で協議は進められた。

広島県議会議員研修会

5月26日、広島市内で開催された「広島県議会議員研修会」に多数の議員が参加した。ジャーナリストの高美貴氏による「メディアが伝えない国際情勢」と、コメンテーターの川村晃司氏による「今後の政局展望と政治の行方」について、講演を受けた。

熊野町を視察訪問

千葉県柏市議会 文教委員会

■視察日 5月13日

■内容 道徳教育について

熊野町へ視察研修で来町され、議長と教育部が対応した。事業内容等について質問が多く出され、活発な意見交換も行われた。



▲柏市文教委員会視察のようす

発見! 熊野町の「工工」ところ。シリーズ第19回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。

「ぬくもりの里」～ vol. 3 シリーズ石造物 ～



▲ぬくもりの園

「ぬくもり」。文字どおり素朴で丸っこくて、少し塩輪を思わせるおらかな感じがなんとも愛らしい。石造シリーズ3回目は、「バランス・ストーン」と同時期に、熊野町のために作られた、石の彫刻「鈴木政夫さんの作品」をご紹介します。

鈴木政夫さんの作品は、町内2ヶ所で見ることが出来る。ひとつは、筆の里工房正面玄関の向かい、東屋のある庭園「ぬくもりの園」。

鈴木政夫さんの石の彫刻は、工房周辺の緑と相俟って、庭園の中に自然と溶け込むように、そこに在る。「熊野町ができる前からずっとここに在るのよ」とでも言いそうなこの作品群は、まるで町を見守る道祖神のようだ。近寄ると、見下ろすことができるので、つい、上を向いている顔をなでてしまいたくなる。



▲ぬくもりの広場

もうひとつの場所は、「バランス・ストーン」からそのまま県道沿いに100mほどいったところにある、広電バス熊野営業所ふもとの「ぬくもりの広場」。

バランスストーン同様、平成2年の熊野トンネル開通時に、トンネルを抜けた道路と歩道をつくる際に設置されたものである。彼の作品は、男女だったり子どもを抱えていたり、必ず一人ではない。こちらも見上げるように子どもを抱えている。ここは、県道沿いの歩道を歩けば目に入るのだが、車で通っただけではわかりにくいのがとても残念である。

さてさて、こんな慈愛に満ちた作品を作られた、鈴木政夫さんは、いったいどんな方なのだろうか?

鈴木政夫さんは、石づくりの本場、岡崎市で生まれ育ち、若い頃から石と取組み、亡くなるまで石一筋に鍛え抜かれた彫刻家である。1916年生まれで、2002年に亡くなる

れている。

そこで、鈴木政夫さんが作品を制作するために熊野にいられた際の様子を、当時の担当課職員であった、南崎幸恵さんに伺った。鈴木さんの作品は、人と人や家族のぬくもりの大切さを表現されているそう。だ。「ぬくもり」は、人にとって大切な永遠のもの。そして、「この場所を通る熊野町のみなさんに、親しみをもってこの作品達に触れてもらい、何年たっても変わらない、人々の願いや希望を感じて欲しい」というメッセージが込められているそう。ふむふむ、どおりで作品をつい触ってみたくなるはずである。



▲作家の鈴木政夫さん「ぬくもりの広場」にて

町内2ヶ所で見ることが出来る、鈴木政夫さんの作品は、今も熊野の風土にピッタリ根ざしているようです。「ぬくもりの里」、そんな町にできたらステキですね。みなさんも、ちよっぴりぬくもりに触れに、鈴木政夫さんの作品を見に出かけてみませんか?

取材 伊藤真由美